

学力の維持向上について

平成28年改訂 いしかわ学びの指針12か条

活用力を高める授業づくり

- 1 物事を**多様な観点**から考察する力の育成
- 2 自ら課題を発見し、**主体的・協働的に課題を解決**する力の育成
- 3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

学力・学習を支える基盤づくり

- 4 目的や状況・相手に応じて「**聞く**」「**話す**」**態度・姿勢**の醸成
- 5 目的や条件に応じて「**書く**」，必要な情報を「**読む**」**態度・姿勢**の醸成
- 6 よりよい解決に向かうための質の**高い学び合いのプロセス**の重視
- 7 主体的な問題解決のための**効果的なICT活用**の促進
- 8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着
- 9 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し，家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進

指導改善を進める体制づくり

- 10 学力と指導力を持続的・継続的に高める**組織づくり**の推進
- 11 **現状把握**に基づき，取組の実施・評価・改善を図る**指導体制の確立**
【学力向上ロードマップ】
- 12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

R6年度 学力向上の重点

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた
「主体的・対話的で深い学び」の実現

		個別最適な学び	協働的な学び
		◎子供たち個々を理解して 関わりながら、 ねらいに迫るための工夫	◎子供たちから引き出した 多様な考えを生かしながら、 ねらいに迫るための工夫
学習指導		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考え（正答(○)だけでなく、不十分な考え(△、×)や、分からない(?)等も)を言える授業づくり ・個々の達成状況を見取り、興味・関心・意欲等を踏まえたきめ細かな指導・支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを通して多様な考えに触れ、「分かった!そういうことか!」を実感できる授業づくり ・学びが深まるよう、多様な考えを生かす仕掛けの工夫
学級経営 生徒指導		<ul style="list-style-type: none"> ・成長やつまずき、悩みなどへの理解 ・個々のよさを認め、活躍できる場を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが、それぞれのよさを認め、そのよさを自分の手本にできるような仕掛けの工夫

×

ICTの効果的な活用

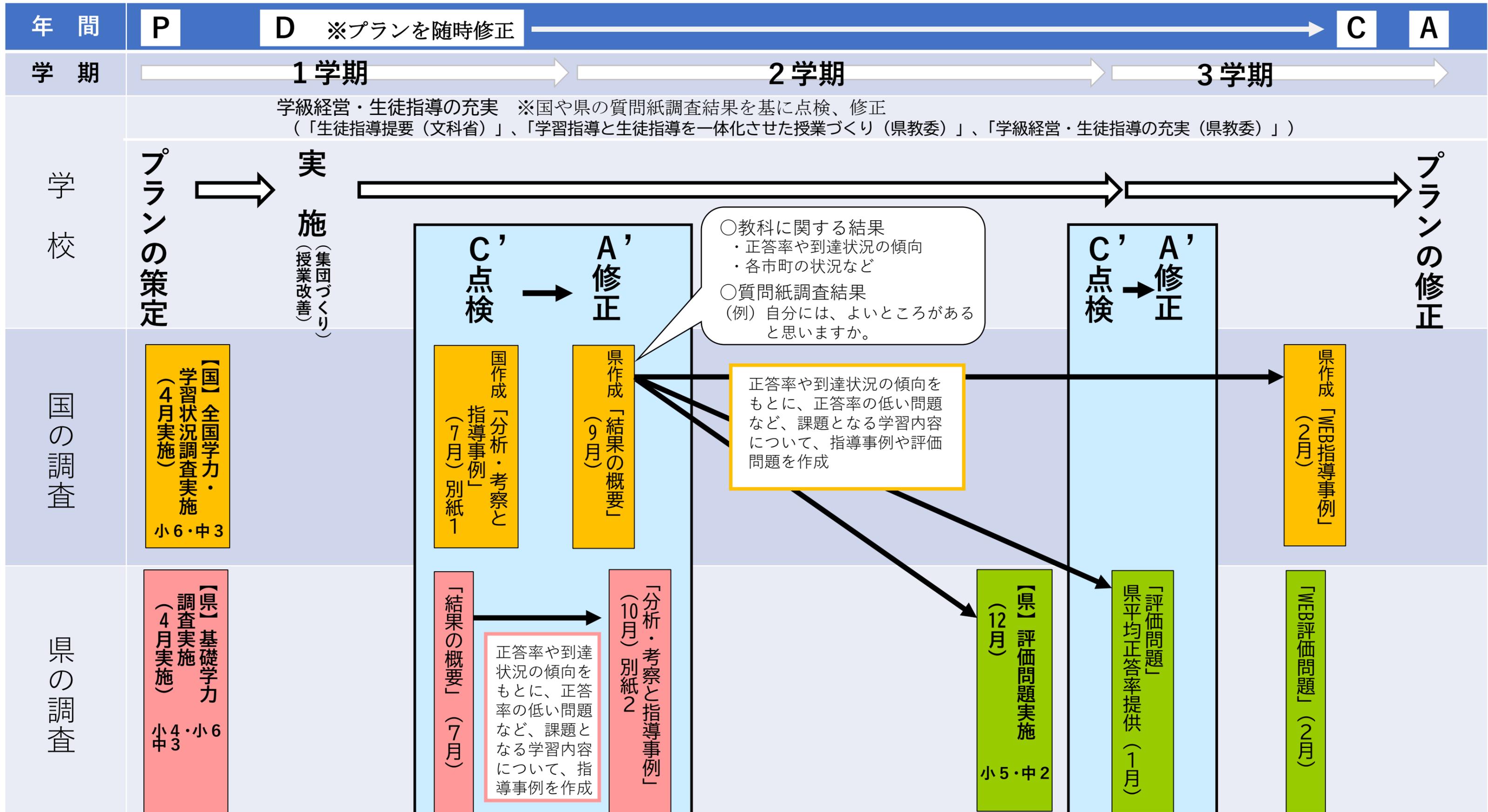
=

主体的・対話的で深い学び



資質・能力の育成

学力の維持向上に向けた取組 ~PDCAサイクルの流れ~



授業アイデア例

「プランターの高さや重さを求めよう」
～二つの数量の関係を明らかにして、問題を解決する～

〈実施対象学年〉
第5学年

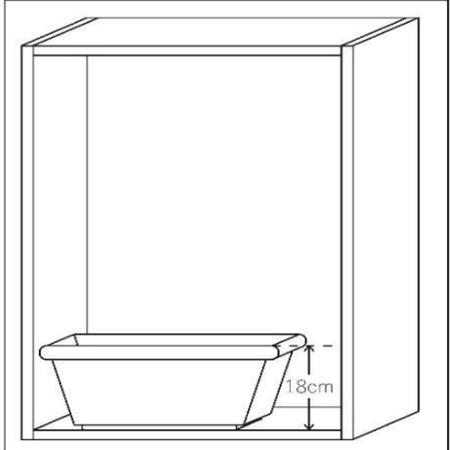
① プランターの数と高さの変化の関係を基に、プランターを重ねた高さを調べる。

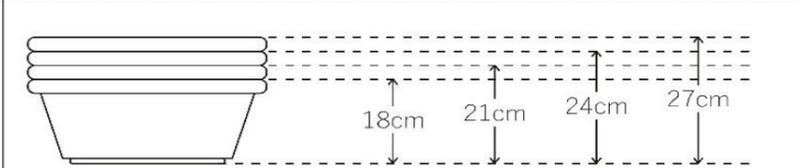
教師 プランターを重ねて、高さ80cm、重さ20kgまで入れることができる棚に片付けようと思います。何個まで重ねて入れることができますか。

まず、高さについて考えましょう。高さが80cmになるまでプランターを重ねて、プランターの数数を数えればいいのか。

プランター1個の高さは、18cmです。高さはプランターの数に比例して、プランターの数が増え、高さも2倍、3倍、…になるので、36cm、54cm、…と増えていくのではないのでしょうか。

教室にプランターが4個あるので、プランターの数と高さの関係を調べてみましょう。





プランターの数(個)	1	2	3	4
高さ (cm)	18	21	24	27

プランターの数が増え、高さは18cmから21cmで、2倍になっていません。

高さはプランターの数に比例していないということですね。

ポイント 伴って変わる二つの数量について説明する際、具体的な数値を示し、根拠を明らかにすることができるようにすることが大切である。

プランターの数と高さにきまりはないのでしょうか。

高さは3cmずつ増えていますね。

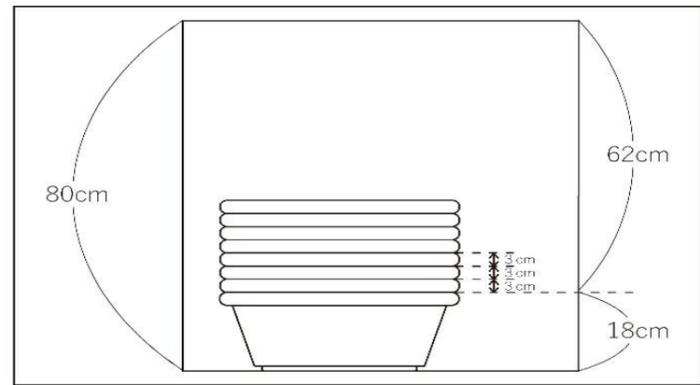
私は高さが3cmずつ増えていることを基に、表の続きを考えました。

プランターの数(個)	1	2	3	4	5	6
高さ (cm)	18	21	24	27	30	33

表の続きを考えると、80cmまで書くのは大変ですね。

きまりを使えば、表の続きを考えなくても調べることができると思います。

高さは3cmずつ高くなるので、 $80 - 18 = 62$ 、 $62 \div 3 = 20$ あまり2で、1個目のプランターに20個重ねて入れることができます。だから、 $1 + 20$ で、21個入ります。



図に表すと、62cmはこの部分です。

② プランターの数と重さの変化の関係を基に、プランターを重ねた重さを調べる。

次に、重さについて考えましょう。プランターを入れる棚は、20kgの重さまで入れることができます。プランター4個の重さをはかると、3kgでした。21個のプランターを、全て棚に入れることはできるでしょうか。

4個で3kgのプランターに、もう4個合わせると、8個で6kgになります。さらに4個を合わせると、12個で9kgになります。

表にすると、次のようになります。

プランターの数(個)	4	8	12
重さ (kg)	3	6	9

表をみると、プランターの数が増え、重さも2倍、3倍になると、重さは3kgから6kg、9kgと2倍、3倍になるので、重さはプランターの数に比例していることが分かりますね。

このことを基に考えると、棚に21個入れることはできないと思います。

私は、棚に21個入れることはできると思います。

それぞれ、どうしてそう考えたのですか。

別紙2：分析・考察と指導事例（県作成） 「令和5年度 基礎学力調査 分析・考察と指導事例（小学校算数）」

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+1

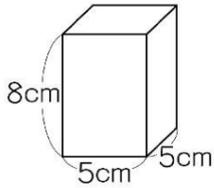
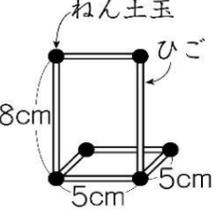
ア 事例1

正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて観察したり、構成したりして、図形を構成する要素の理解を深める学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
8	図形	箱の形の辺と頂点の数について理解している。	知識・技能

8 さとしさんは、図1のような箱の形を、ひごとねん土玉を使ってつくろうと思い、図2のようにとちゅうまでつくりました。箱の形を完成させるには、ひごとねん土玉が、あとどれだけいらしますか。次の㉞～㉟に入る数を書きましょう。

図1  図2 

「5cmのひご」があと ㉞ 本、
 「8cmのひご」があと ㉟ 本、
 「ねん土玉」があと ㉟ こ
 いらします。

さとしさん 

正答例	誤答例		
㉞ 3 (本)	㉞ 4 (本)	㉞ 8 (本)	㉞ 8 (本)
㉟ 2 (本)	㉟ 2 (本)	㉟ 4 (本)	㉟ 4 (本)
㉟ 2 (こ)	㉟ 2 (こ)	㉟ 8 (こ)	㉟ 6 (こ)
正答率 51.9%	誤答率 41.4%	無解答率 6.7%	

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「箱の形の辺と頂点の数について理解している」であり、正答率は51.9%と不十分である。誤答については、ひごやねん土玉の数について、不足分ではなく、図に描かれている分も含めた数を答えているものが多い。この要因として、辺や頂点の数を知識として理解させるだけでなく、平面で描かれた図を立体でイメージしたり、制作過程のイメージをもったりすることができるように、箱などの形を実際に作らせる指導が不足していることが考えられる。

指導に当たっては、例えば、6枚の長方形や正方形を貼り合わせて構成した箱や、12本のひごを用いて構成した箱など、箱の形をしたものを、観察したり、実際に作ったりする活動を丁寧に行うことが必要である。また、辺の長さの違う立体を実際に組み立てるといった活動を通して、立体図形を構成する要素に気付くようにすることも必要である。

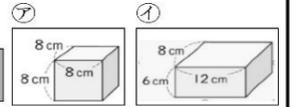
③ 改善事例 第2学年「はこの形をしらべよう」

1 指導のねらい

箱の形をしたものを観察したり、構成したりする活動を通して、図形を構成する要素を理解することができる。

2 具体例【違う形の箱を2種類作り、共通点を見つける活動】

㉞や㉟の箱を提示して、ひごとねん土玉を使って、箱の形を作らせる活動を行う。



㉞や㉟の形をつくることはできましたか？

㉞は簡単に作れたけど、㉟が難しかったよ。

㉟は辺の長さが違うから、どういうふうに組み立てたらいいのかわかりません。

ねん土玉は、8個あれば作れるよ。

ひごの長さはいろいろあるけれど、向かい合っている辺が同じ長さになるように組み立てるとできそうだね。

ということは、6cm、8cm、12cmのひごが4本ずつあれば作れるな。

全員㉟も作れましたね。では、㉞と㉟の箱をつくってみて、気付いたことはありますか？

ねん土玉を8個使ったのは、㉞も㉟も同じです。

長さは違うけれど、㉞も㉟も使ったひごの数は全部で12本です。

ねん土玉やひごの数は、箱の形の何の数を表していますか？

ねん土玉の数は、箱の頂点の数を表しています。

ひごの数は、箱の辺の数を表しています。

【制作途中の箱を見て図形を構成する要素に気付かせる活動】

先生は㉟の箱の形を作っていたのですが、途中で材料が足りなくなりました。完成させるには、あと、ひごを何本、ねん土玉をいくつ用意すればいいですか。先生に教えてください。

それぞれの長さのひごは4本ずついるから、4cm、5cm、8cmのひごが、今のところ何本使われているかわかれば、引き算をして求めることができるね。

ということは、4cmのひごはあと2本、5cmのひごはあと1本、8cmのひごはあと2本いらします。

ねん土玉は7個使われているから、頂点の数の8から7を引いてあと1個いることが分かるね。

みなさん、辺や頂点の数に着目して、ひごやねん土玉があとどれだけ必要かを求めることができているね。では、ペアになり、途中まで箱の形をつくって、あとどれだけひごやねん土玉が必要になるか、お互いに問題を出し合ってみましょう。

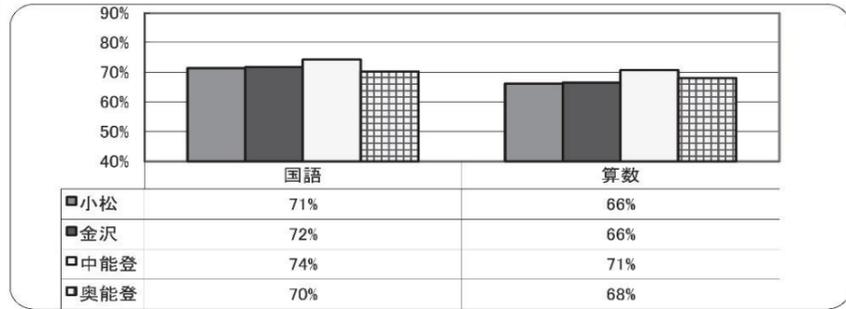
POINT 算数・数学の学習用デジタルツールを活用することも考えられますが、画面上の操作だけで終わらせることなく、実際に直方体や立方体を作ったり、分解したりする活動を積極的に取り入れ、図形についての感覚を豊かにしましょう。

〔第1学年〕「はこの形」
 形を作ったり分解したりすることを通して、形の構成の仕方について考える学習活動

〔第4学年〕「直方体と立方体」
 立体図形を平面図形に表したり、逆に平面図形から立体図形を構成したりする学習活動

(3) 各教育事務所の状況

〔小学校〕



※平成29年度から文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。
本資料は、各教育事務所管内の状況について、国、県、及び市町教育委員会、それぞれの平均正答率を整数値として示したものであり、そのため精緻な数値での状況と異なる場合もある。

【小松教育事務所管内】

加賀市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。
小松市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。
能美市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
川北町	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率と同程度だが、県の平均正答率をやや下回る。

【金沢教育事務所管内】

白山市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。
野々市市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。
金沢市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。
津幡町	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
内灘町	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。
かほく市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。

【中能登教育事務所管内】

宝達志水町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。
志賀町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。
羽咋市	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。
中能登町	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
七尾市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。

【奥能登教育事務所管内】

能登町	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
穴水町	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
輪島市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
珠洲市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。

※ 表記の仕方：国や県の平均正答率との差が、±5%以上(以下)は上回る(下回る)、±2%以上(以下)～±5%未満はやや上回る(やや下回る)、±2%未満は同程度。